

## 空手文化小論「おもろと空手Ⅱ」～「おもろ」に手の痕跡への想い～

與儀 清春 空手文化部 部会長 Dec.14.2016

### 1、「おもろと空手」の発祥～1400年代に発祥、源流は1300年代に～

空手の発祥は沖縄。それはいつの時代なのか、その痕跡はないものかとの想いが募ります。物理的にはないにしても文化的に痕跡はないものか、琉球の古謡・文学書「おもろそうし」にないものかとの想いでした。

古代、中世と世界の遺跡の中には洞窟壁画等に武術や戦いの様を描いた遺跡が数あります。琉球、沖縄の遺跡等に手の痕跡はないものだろうか…?

「おもろそうし」発刊は、第1巻1513年、第2巻1613年、第3巻1623年です。第1巻採譜から伝統の成立を百年と例えると空手とおもろの発祥は1400年代となり、さらに空手とおもろの源流は1300年代とさかのぼることが出来るのか…?

### 2、「おもろ」での「空手」について～おもろの謡に見る手と戦さ～

\*「手」Tiyの変容』の中に「おもろ」第1巻、きこゑ大きみがおもろ「首里王府の御さうし」は41編のうちの13編が戦いの謡となっています。戦いにおいては、実際に手が使われていた証しとも想えます。「おもろ」第3巻、きこゑ大きみかなし御さうし「しより大きみが節」には手の原型が有ったことが伺えます。

\*\*『琉球おもろ学者』には、慶長の役・薩摩進攻の中で同じく「しより大きみが節」が引用されております。

\*\*\*『わすれまい!』の中に、沖縄の武術・本部御殿手とはについて、おもろ第9首里天ぎやすへあんじおそいがしいろいろのこねりおもろ御双紙の中に、「こねりおもろ」の「舞の手」から「本部御殿手」武の舞への流れに触れております。

### 3、「おもろ」は演・武するのではなく、謡う(ふきゆる)もの～手の原型が～

神女が手の様を想い、「敵方に勝てる。天の神様が味方している。我が王が勝てる…」と願い、謡うのです。実際に手なるもので戦う事ではないのですが、手の原型が有ったと、「おもろ」は表しているといえます。

1477年即位した尚真王時代から100年以上もかけて採譜されているということは、それ以前にすでに手なるものがあったということになるわけです。

「おもろ」から見るに、手の成り立ち・原型が…1400年代、1300年代に遡ると想うのです。おもろを通じ、いつか…どこかに空手の痕跡を見つけたい想いです。

\*参照 おもろそうし(上・下) 外間守善著・\*「手」Tiyの変容 野原耕栄氏著

\*\*琉球おもろ学者・鳥越憲三郎 山口栄鉄著・\*\*\*わすれまい! 宮城鷹夫著

那覇市文化協会 第24回2016あけもどろ総合文化祭「空手文化部会」県立博美術館平成28年3月25日(金)